報　告

（公財）高速道路調査会の代表者が評議員を務める REAAA の第 122 回評議員会が開催され，併せて開催された REAAA 技術委員会（TC）・技術小委員会（TSC）および第 26 回若手技術者・専門家会議の概要について出席者から報告します。

第 122 回 REAAA 評議員会出席報告

鈴　　木　　徹*

はじめに

アジア・オーストラレーシア道路技術協会（Road Engineering Association of Asia and Australasia：以下「REAAA」という）の第 122 回評議員会が，2024 年 9 月 5 日バンコクで開催された。

日本からは，橋場評議員（(公社)日本道路協会 代表評議員），鈴木評議員（(公財)高速道路調査会 代表評議員），黒田推薦評議員（日本工営㈱）および神谷舗装技術小委員会委員長（中日本高速道路㈱）が現地で参加するとともに，首都高速道路㈱の土井弘次 代表取締役専務執行役員もオブザーバーとして参加された。また，今回は YEP（Young Engineer Professional）会議も開催され，東日本高速道路㈱の甲斐野氏，柴田氏，中日本高速道路㈱の北口氏，西日本高速道路㈱の金子氏，鶴川氏，首都高速道路㈱の大村氏が出席した。

今回，9 月 4 日～6 日の間，バンコクの Bangkok International Trade & Exhibition Centre で The 5th International Conference on Highway Engineering 2024 が（https://www.iche2024.com/）タイの Ministry of Transport, Department of Highway, Road Association of Thailand の 3 者の主催で開催されており，この国際会議の一環として REAAA 評議員会などが開催された。

今回の出席報告では，評議員会等は鈴木が担当し，技術委員会（以下「TC」という）は神谷氏が，YEP 会議については東日本高速道路㈱の甲斐野氏，中日本高速道路㈱の北口氏がそれぞれ担当する。

REAAA 行事の日程については，表―1 を参照されたい。

表―1　第 122 回 REAAA 評議委員会等の行事表

2024 / 9 / 4 ㈬	13:00-16:00	11th REAAA Business Forum
	16:30-18:00	Networking Reception
2024 / 9 / 5 ㈭	9:00-12:00	6th YEP Meeting
	13:00-16:00	122nd REAAA Council Meeting
	18:30-20:30	Gala Dinner

1．第 122 回評議員会（写真―1）

会議は Dr. Sung-Hwan Kim REAAA 会長（韓国）の挨拶による歓迎の辞によって始まり，前回マニラで開催された第 121 回評議員会の議事録確認，財務委員会報告，事務総長報告がなされた後，各作業委員会（以下「WC」という）からの活動状況報告がなされる形で進行された。

＊　REAAA 評議員，日本高速道路インターナショナル㈱代表取締役社長

写真―1　第 122 回 REAAA 評議委員会 各国の評議員

⑴財務委員会報告

当報告では，主に 2024 年度（1 月～7 月）の収支説明があった。

当該期間の総収入は，137,006 マレーシアリンギット（以下「RM」と示す）であり，予算総額 328,065 RM の約 42％に相当する。これら収入は，主に入会金および会費（期間中，105,815 RM），広告収入（期間中，9,500 RM），利息収入などから成り立っている。一方の支出であるが，この期間中は，126,428 RM であった。

また，今報告では，2025 年度の予算案が提示された。収入は，489,310 RM で今年度の 328,065 RM より増加している。これは期間中の 2025 年 10 月に韓国で第 17 回 REAAA 道路会議（以下「韓国大会」という）が開催予定であることによる。支出は，327,571 RM とこれも今年度の 297,098 RM より増加している。これらに伴い，今後の取るべき行動が委員会から示された。すなわち，① REAAA の財政健全化に対して，評議員全員の援助が必要であること，②評議員は，新規会員および広告の増進などが要請された。

⑵各作業委員会（WC）活動報告

1）会員拡大（C9）

REAAA の会員数の推移として，2023 年 12 月 31 日時点で 1,188 名であったものが，2024 年 7 月末で 1,197 名となっている。この期間中，34 名が退会し，43 名が入会したことによるものである。

委員会報告では，今期会員数に関して，着実な成長が見られたとしており，今後も会員基盤の維持と拡大に努めるとしている。また，バーレーン，バングラデシュ，ネパールなどの国が現時点で加盟されていない状況を課題および機会として捉えると総括している。

2）広告（C3WC7）

REAAA が公に情報発信する媒体としては，① Website，② Newsletter（年 2 回発行），③ Technical Report / Journal である。これら 3 つの媒体には，民間

企業からの広告を広く募っており，その収入は貴重な活動費となる。

今回は，今年度の広告計画が発表され，Website で７件，Newsletter で３件の広告申し込みがあり，これらの収入は 12,500 RM とのことであった。

3）REAAA Newsletter（C3WC2）

2024 年度の Newsletter は２回発行される計画で，第１弾は，AI Application in Road Engineering & Management をテーマに 2024 年８月１日に発行されている（https://www.reaaa.net/reaaa-newsletter-2024-1/）。第２弾は，Climate Change Impacts on Road Engineering & Management をテーマに 2025 年４月１日に発行される予定である。

Newsletter にはテーマに関すること以外にも，評議員会，YEP 活動，Business Forum など各種会議の活動報告やイベント予定をはじめ，新規会員紹介など内容も盛りだくさんである。ぜひ，ご覧になっていただきたい。

4）Smart Highway 賞（C7WC3）

Smart Highway 賞は，REAAA 関係者の Smart Highway Management System の開発と応用における優れた功績と貢献を称え，これら開発の経験・ノウハウを共有し，道路工学の横断的統合と Smart 技術の応用を促進するために創設された。

現在までに，17 案件（韓国８，台湾４，マレーシア３，シンガポール１，タイ１）の応募があり，韓国大会での表彰に向けた選定作業が進んでいる。

5）片平賞（C6WC1）

片平賞は，道路関連工学における技術促進・高度化に若手の積極的な関与を奨励するために，REAAA 道路会議で発表された優秀論文に対し授与されるものである。また，2023 年度に片平賞の表彰対象を従来の優秀な技術論文に加え，TC 活動で作成される優秀なケーススタディー・レポート等の報告書・論文を含め表彰することで変更が加えられた。

今回の評議員会では，片平賞選考委員案を審議いただき，承認された。また，今後の予定として，技術論文（Abstract）の Call for paper が今年の 11 月に開始される旨，報告した。本報告をご覧の若手の皆さまもどしどしご応募いただきたい。

6）三野ベストプロジェクト賞（C6WC2）

アジア太平洋地域において建設された道路または橋梁で，傑出したものと認められたプロジェクトを表彰するものである。

今回は，橋場評議員より現況報告があり，現在は，プロジェクト候補の募集がなされているところである。募集は今年 12 月末で締め切られ，その後，選定，韓国大会での表彰となっていく。

7）Hwang 賞（C7WC1）

Hwang 賞は，REAAA 名誉会員である Mr. Hwang Gwang-ung の寄付金により設立された賞である。この賞の目的は，アジア太平洋地域における道路セクターと地域の発展に多大な貢献を果たした REAAA 会員を称えるものである。

現在の状況は，７月 26 日まで候補者の募集が行われていたが，候補が少数に留まっていることから，募集期間が今年の 12 月末まで延長された。

これまでの Newsletter，各賞の概要や REAAA の今後の予定など REAAA のウェブサイトをご活用いただければ幸いである（https://www.reaaa.net/）。

２．第 123 回以降の評議員会開催国の調整

次回第 123 回については，2025 年５月にメルボルンで開催される予定である。これは，同年５月７日～９日の間で豪州の National Transport Research Organization が開催する「The Transport Revolution」（https://www.ntroconference.com.au/）という道路会議との同時開催を目指すものである。

３．その他

⑴ 2025 年 10 月，韓国で開催予定の第 17 回 REAAA 道路会議の概要

今回の評議員会では韓国大会の概要説明があった。内容は以下のとおりである。

表―２　現在の日本の REAAA 取組み体制

REAAA 職	REAAA 職（英語）	氏名（敬称略）	所属等
評議員	Council Member	橋場　克司	(一社)国際建設技術協会 理事長
		鈴木　　徹	日本高速道路インターナショナル㈱ 代表取締役社長
推薦評議員	Co Opt	黒田　幸次	日本工営㈱ シニアエンジニア
		神谷　恵三	中日本高速道路㈱ 高度技術推進部 専門主幹

- 日程：2025 年 10 月 26 日～ 29 日
- 会場：KINTEX2（Goyang city）
- ホスト：Korean Expressway Corporation（KEC）および Goyang City
- 組織委員会：Korean Road Association
- スポンサー：Ministry of Land Infrastructure and Transport
- メインテーマ：“Future Roads；Hyper-connection”

当大会は，期間中，Technical session を含む各種会議，評議員会，YEP，Business Forum，さらには，HORA Meeting なども予定されているほか，PIARC の各種行事も行われる大規模なものとなっている。

⑵ REAAA 次期会長

REAAA は４年間を１タームとして各種行事が行われており，2025 年 10 月韓国で開催される第 17 回道路会議を１つの節目としている。また，会長の任期は４年であり，韓国大会で会長が代わる予定である。

今回の評議員会では，会長改選事務を司る Nomination Committee から報告があり，現在のところ自推の候補が０とのことであった。しかしながら，他推候補として，現台湾評議員の Mr. Richard Jen-Chuen Moh が複数の国のサポートを受け，韓国大会で会長に推挙される予定である。

⑶カザフスタンの REAAA 加盟

今回の評議員会終了後，カザフスタンの PIARC 国内委員会と REAAA が協力協定に調印し，カザフスタンが REAAA 加盟国となった。今後，カザフスタンとの関係深化が望まれる。

４．まとめ

今回の評議員会では，来年 10 月に開催が予定されている韓国大会に向けた各種作業が活発化していることが感じられた。特に，私が担当する片平賞の準備についても，今後，韓国チャプターが担当する課題設定，募集，選定に向けたスケジュール感を共有できたと考え，今回の大きな成果と言える。

また，後段で報告があるが，YEP 活動の活発化を日本勢から提案し，次回のメルボルンでの YEP 会議で特別な催しを行うこととなったことも大きな成果と言えるだろう。

さらに，今回の評議員会において，中日本高速道路㈱の神谷氏が推薦評議員に就任した。神谷氏は，今まで TC の舗装小委員会の議長として活躍していたが，今後は，評議員としても活動されることとなった。

今回は，日本の REAAA に関係する方々（表―２）をはじめオブザーバーも含め多数のご参加をいただいた。結果として，REAAA の発展のために日本勢が大いに貢献する結果となった。ここに参加された皆さま全員に感謝の意を表したい。

今後も，地域の発展，また，日本自体のさらなる発展にもつながるような REAAA であるべく，活動を続けてまいりたい。

REAAA 技術委員会（TC）・技術小委員会（TSC）報告

神　谷　恵　三*

本稿では，技術委員会（Technical Committee）の全般と各技術委員会（Technical Sub-Committee）の活動について神谷が報告する。

バンコク評議員会は対面形式が計画されていたが，直前週の金曜日にオンライン開催の併用が通知された。この背景には，豪州の技術委員長 Dr James Grenfell（Mr Kieran Sharp から交代）の要望が反映されたように思われる。しかし，Grenfell 氏が出席できたのは冒頭の１時間のみであった。

〇技術委員会

Grenfell 氏の報告パートを神谷が担う事前準備を進めていたが，豪州委員の Richard Yeo 氏が代理報告を務めることとなった。これは議長から Yeo 氏を指名して状況報告をお願いするという当然の流れであった。しかし，Yeo 氏が Grenfell 氏のスライド説明を終えた後，技術委員長の姿勢を疑問視する声が沸き上がった。Grenfell 氏に対しては技術委員長の職をしっかりと全うしていただきたいとして事務局からの要請が出されるという残念な結果となった。

このような状況ゆえに，テレビ会議を活用した３つの技術小委員会の活性化という彼なりの意見表明は話題にならなかった。以下に個別テーマを述べる。

REAAA ジャーナル：二輪車の交通事故に言及した各国アンケート調査を終えており，これのジャーナル発刊を目指している。迅速な実現化に向けて道路安全小委員会の活動支援が望まれる。

PIARC との連携：今回の評議会は道路技術国際会議 iCHE2024 の一環として開催された。PIARC から Mallejacq 事務局長が出席する側面から，関係者との調整が図られた。

統計 Data：年間の道路死亡者数等の統計 Data のアップデートについては，評議会事務局が毎年の照査を行うことが前回の評議員会において提案された。しかし，具体的な運用方法については定まっていない。

〇舗装小委員会

まず，半年間で着実な進展があったことを述べた。今期の本小委員会テーマである舗装修繕のカントリーレポートを収集・編纂作業を進めており，最終的には全 11 編の論文集になると報告した。この論文集は，Pothole 関連３編，Recycling 関連４編，Resilience 関連４編という章立てとなる。このうち，日本と豪州は各３編を執筆したことを付記しておく。これは，各国１レポートを目指したものの，４カ国から論文提供がなかったことによる。なお，レポートの字句修正といった編集作業は，昨夏に退官された全技術委員長の Sharp 氏にお願いしたままとなっている。これについても本来は Grenfell 氏の役務であるので，心苦しい状態が続いている。

さいごに，ドラフトレポートの仕上がり時期を問われた際，年内予定であると回答した。

この他，評議員会の１週間前に開催したテレビ会議の報告を行った。内容は２件の舗装技術紹介である。１つは，昨年の PIARC Prague 大会での発表を受け，今回の iCHE2024 で特別講演を依頼されることとなった日本の舗装再生技術である。既に 20 年以上前から再生率 99％を達成している状況は，既に再生行為が急務となっているアジア諸国のお手本ともいえる。発表者の平川氏は（一社）日本道路建設業協会の国際幹事をご担当されている。もう１つの発表は神谷が担当した「舗装の早期補修の有効性」というトピックである。タイトルどおりの効果を NEXCO 保有の舗装マネジメントシステムから検証した本論文は７月の第 10 回国際維持修繕会議 MAIREPAV-10 にて公開したものである。

＊　REAAA 舗装技術小委員会（PTC）委員長，中日本高速道路㈱技術本部高度技術推進部専門主幹

参加者は多くなかったものの，２件は好評を得た。今後共に，このような活発なテレビ会議は継続して行きたいと総括した。

〇道路安全小委員会

議長からの指名を受けた後，小委員長 Muhammad Marizwan bin Abdul Manan から，現況報告がなされた。二輪車の交通事故に言及した各国のアンケート調査に基づくドラフトレポートは，未提出国からの調査報告を受け付けていると述べられた。また，iCHE2024 バンコク大会の一環として，PIARC TC 3.1 道路安全委員会が併設されるとの報告があり，プログラムに記載されているとおりであった。

〇レジリエンス小委員会

小委員長 Caroline Evance から初の対面出席として，報告がなされた。PIARC Strategic Theme 1 コーディネイターを兼務する彼女から，本小委員会の重要性が説明された。昨今の異常気象は地球温暖化現象の一端であり，離散的な時間雨量の増大，また一方で干ばつ地域においても降雨量の極端な格差が観測されている。その結果，各所で自然災害が報告されている。小委員会はこのような災害の中で，道路の復旧方法とその後の防止策等について，知見を集積して行くというものである。本件は PIARC の中でも重要テーマに位置付けられており，彼女は iCHE2024 事務局との調整を経て REAAA 特別セッションが翌日に開催されることを報告した。アジア諸国では多様な自然災害に見舞われるが，これらの事例収集に苦慮するのは同じ小委員長として共感するところが多い。災害事例レポートを未提出の国は年内の提出をお願いして彼女は報告を終えた。

翌日の特別セッションでは，彼女からの依頼を受け日本からの事例紹介が要望されていた。昨年の Prague 大会で尾方氏（金子氏 共著）が発表した令和２年７月豪雨による熊本県の災害は，まさに紹介に値するとして，神谷は国内関係者からの賛同を取り付けた。その後，西日本高速道路㈱との調整を進めた結果，若手技術者・専門家会議（YEP）参加の鶴川氏が代理報告を担っていただけることとなった（写真―１）。この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

写真―１　若手技術者・専門家会議参加の鶴川氏

写真―２　技術委員会の発表者全体写真

委員長の冒頭説明の後，発表はタイ，インドネシア，日本の３カ国であったが，コストと時間の中で十分な耐久性が得られるように努力と工夫が払われたことは全てに共通していた。発表後の質疑応答では，「道路の復旧のみならず地域の再生支援にまで取り組んだ日本の事例は素晴らしい」との賛辞をいただいた（写真―２）。

REAAA 第 26 回若手技術者・専門家会議出席報告

甲斐野　翼*　北口　修**

はじめに

REAAA 第122 回評議員会の開催に先立ち，第26 回若手専門家（Young Engineers and Professionals：以下「YEP」という）会議が，タイの YEP を幹事として 2024 年 9 月 5 日にタイのバンコクで開催された。YEP 会議は各国の若手の道路専門家の交流を目的として開催され，2012 年 4 月の第 1 回会議以降，評議員会と合わせて年 2 回程度開催されている。

○第 26 回若手専門家（YEP）会議の概要

本会議には，インドネシア，タイ，マレーシア，台湾，日本，韓国，シンガポールから約 20 名の YEP が本会議に参加した．日本からは 6 名の YEP が参加した（表―1）。

表―1　各社の YEP

所属	氏名	現地参加
東日本高速道路㈱	甲斐野　翼	○
中日本高速道路㈱	北口　修	○
西日本高速道路㈱	鶴川慶次郎	○
西日本高速道路㈱	金子　翼	○
首都高速道路㈱	大村　陽	○
阪神高速道路㈱	佐川　弘	
本州四国連絡高速道路㈱	小林　弘昌	
日本高速道路インターナショナル㈱	柴田　祐希	○

YEP 会議では，各国からの活動報告（アップデート）が行われた。日本からは現地参加の YEP から日本の YEP 国内活動に関する報告，高速道路の事業スキームに関する内容を報告した。他国からは道路関係の会議や学会への参加，2024 年の YEP の活動計画，2025 年に韓国で開催予定の REAAA 道路会議や YEP 会議に向けた準備計画，自国の道路建設工事の現場視察など，さまざまな内容の報告がなされた。各国の YEP がどのような活動を行っているのか知ることができ，日本の YEP の今後の活動を考えていくうえで非常に参考になった。

スペシャルディスカッションでは人工知能（AI）を用いて道路技術にどのように応用できるかについて，YEP 間で議論を交わした。道路損傷の写真データを機械学習させて予測モデルを構築し，メンテナンス事業に関する適切な投資の意思決定支援を行えるという意見や，ソーシャルメディアへの投稿の分析を行うことで世論を反映できるという意見等が挙げられた。また，日本側から次回以降の YEP 会議に関して，YEP 間の交流をさらに深めるためのイベントの実施を提案し，YEP 関係者から前向きな反応が得られた。会議の最後には，参加者で記念撮影をして終了した（写真―1）。

写真―1　YEP 会議参加者で記念撮影

参加所感

本会議に向け，国内 YEP 間の初めての国内活動として，NEXCO 東日本 総合技術センターと海ほたる PA の現場視察を 2024 年 4 月に実施した。2 回目の国内活動を 2024 年 11 月に実施予定である。この活動報告についても 2025 年 5 月にオーストラリアのメルボルンで開催の YEP 会議の中で共有のうえ，各国の YEP と意見交換を予定している。今回の会議では次回以降の会議をより有意義なものにするための提案がなされ，次回以降の会議への期待が高まった。また，本会議は他国の道路関係者と交流をする貴重な機会であり，引き続き良好な関係を保ち，情報交換を行っていくことが私たち YEP の責務であると感じている。次回会議でも関係性を構築できる交流を行っていく所存である。

＊　東日本高速道路㈱サービスエリア・新事業本部
＊＊　中日本高速道路㈱技術本部海外・技術事業部